

求められる対策

ゲーム・スマホ依存 特徴と対処法

今までの連載でも説明した通り、ゲーム依存やその予備軍は、若者を中心に増加していると思われる。予防や治療が緒に就いたばかりの今、以下のような対策が求められます。まず第一に、子どもに対する予防教育です。最近、乳幼児までスマホやタブレットを使っていることから、それを見守る若い親に対する教育も必要でしょう。

第二に、相談対応システムの構築と拡充です。自分の子どもにゲームの問題があっても、両親はどこに相談してよいか分からないのが現状です。また、対応する側も専門知識を有しないことが多く、

国立病院機構久里浜医療センター院長

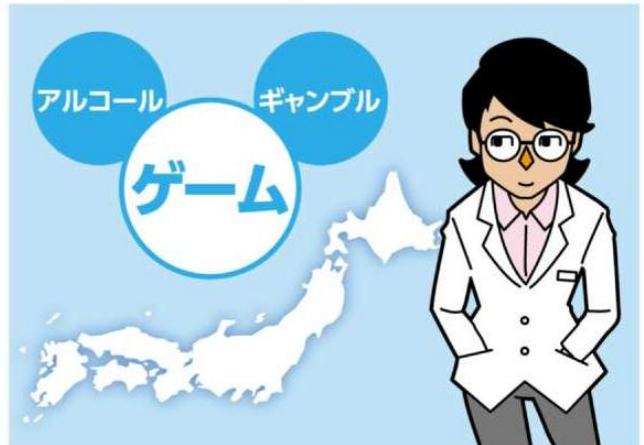
樋口 進

必ずしも適切な対応ができていません。これに対する動きとして、最近、消費者庁が各地の消費生活センターで、ゲーム依存の相談を始めると公表しました。

第三に、専門治療を提供している医療施設の整備です。例えば、子どもの専門外来では、実際に診察できる患者数をはるかに超えた受診希望者がいます。ゲーム依存を適切に診てくれる医療機関は限られており、全国的に医療体制が需要に追いついていません

- 13 -

予防教育や相談、医療体制を充実



ん。この状況を改善すべく、子どものセンターでは、2014年度から医療関係者、教育関係者に対して、また、昨年度から相談対応者に対して研修を行っています。しかし、昨今の相談、医療のニーズに

対応するためには、さらなる拡充が必要でしょう。

最後に、韓国や中国で行われている、年少者のオンラインゲームへのアクセス制限等についても、その有効性を評価した上で、必要があれば導入を検討すべきだと思います。

最近、ゲーム依存の予防に関する香川県の条例が話題になっていきます。若者のゲームの過剰使用に起因する問題や依存を予防することを目的にした条例で、画期的なものだと思います。今後、適切に施行され、その有効性や課題が評価された上で、アルコール健康障害やギャンブル等依存症のように、国の基本法として結実していくことが期待されます。

(おわり)

